

難民の子供たちに音楽を届ける
支援を始めたバイオリニスト

かわい
川井
いくこ
郁子さん 39



小山裕基さん提供

ミャンマー軍事政権に迫害
された少数民族カレン族が暮
らす、タイ西部のタムヒン難
民キャンプ。11月13日、バイ
オリンを通して難民児童を元
気づけようと、現地を訪れた。
日本で覚えてきたカレ
ン童謡を、難民の子供
たちと一緒にバイオリ
ンで弾き、拍手喝采を

顔

「音楽は、人との
かかわりに貴重な役
割を果たすと強く感じた」
昨年、1児の母となり、「つ
らい境遇の子供たちをほっと
けない気持ちが強くな
った」。8月に軽井沢
で難民児童への援助を
目的とした初のチャリ
ティー・コンサートを開催。
「川井郁子・Mother
Hand基金」も設立し、支
援を呼びかけてきた。
電気も水道もないキャンプ
に居住する難民は約6000
人。軍政による弾圧が続く祖
国・ミャンマーへは戻れな
い。それでも、「子供たちは
人なつっこい笑顔を見せてく
れた」。カレン民謡の協奏は
故郷を懐かしむ子供らの心を
打った。
「今までは自分を表現する
ことが最優先だったが、聞き
手との距離を縮め、音を共通
体験することの大切さを知っ
た」。演奏後、それぞれの住
居で曲を口ずさむ子供たちの
声を聞き、再訪を誓った。
大阪芸大教授を務
め、国内外のオーケ
ストラと共演、作曲
も手がけるなど多忙な日々だ
が、「今後はアジア各国でも
コンサートを行い、難民キャ
ンプを回りたい」。「母」の
奏でるメロディーが、世界中
に響き渡る日は遠くない。
(バンコク支局 田原徳容)